

# 結核臨床研修会報告

地域連携室長 横地 英博

2月22日（日）に、穴水町の『のとふれあい文化センター』において当院主催の結核臨床研修会を開きました。結核臨床研修会は結核医療における地域の医療機関相互の連携強化を図り、結核医療の向上に努めることを目的としており、平成13年度から年1回石川県の各地で開催しています。今回は能登北部地区の医療従事者と介護福祉関係者の方々を対象とし、能登北部医師会、石川県薬剤師会、石川県臨床衛生検査技師会の共催、石川県看護協会の後援をいただきました。当日は晴のち雨の天気の中、57名の方の参加がありました。

演題は5題あり、第1演題は能登北部保健福祉センター所長小林勝義先生から「能登北部保健所管内の結核患者の発生状況について」と題して講演がありました。平成25年結核登録状況では能登北部の罹患率は人口10万対19.9人とここ5年間ほぼ横ばいであること、発病から初診までの期間が長い傾向があること、病院に受診していない患者が多数いる可能性があることを述べられました。第2演題は当院の堂下隆内科医長から「結核診断のポイントについて」と題して結核菌、結核感染と発病、結核菌関連検査の基礎的知識から実際の症例にもとづく結核診断のこつの説明がありました。第3演題では土島秀次外科医長から「結核症例の実際について」という題で5症例の提示がありました。第4演題「良質な喀痰の採取法とその評価について」では多和田行男臨床検査技師長が上手な痰の採取方法と喀痰の品質評価の重要性について解説しました。第5演題「結核発症時の施設内対応と看護について」では一花知子結核看護院内認定看護師から結核の感染経路、結核発症時の施設内対応、感染防止対策、結核看護、抗結核薬、DOTSカンファレンスと退院後の対応、精神的援助にいたる流れの具体的説明がありました。最後に参加者全員にN95マスクを配り、正しい装着法とフィットテストを体験してもらいました。

研修会終了後のアンケートを一部ご紹介いたします。「多職種の目線からの演題が勉強になった」、「具体性が高く症例が多かった」などです。ご意見を参考に今後も結核拠点病院として情報を発信していきたいと思っております。

